

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ協議会

住所: 山口県長門市東深川1339番地2

氏名: 会長 吉村 博克

法人番号: 5000020352110

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 人工基盤 吸收源の新たな創出 吸收源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>【プロジェクト内容】 山口県長門市の仙崎湾周辺において、山口県が1983年から藻類の着生基盤として石材や構造物（増殖場）を設置して魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成などを整備してきた。 仙崎湾では、大型定置網漁をはじめ採貝漁やナマコ漁などが営まれており、湾内の藻場は水生生物の生息の場、産卵の場、幼稚魚の育成の場として重要であることから、漁業関係者による藻場保全活動が行われてきた。 近年、海水温上昇などの海域環境の変化により、静穏的な湾内ではウニ類などの植食生動物の増加による藻場の衰退が急速に進行しており、地域の課題として藻場の回復・維持を掲げたところである。 こうした中、藻場保全活動を効率的、かつ継続的に実施するため、2022年9月に「海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ」協議会を立ち上げ、関係者が共同かつ組織的に行う藻場保全活動に着手したものである。</p> <p>【実施者及び申請者】 「海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ」協議会は、下記の山口県長門市、漁業関係者、山口県で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県長門市産業経済部農林水産課 ・山口県漁業協同組合長門統括支店、通支店、仙崎支店、小島支店、野波瀬支店 ・山口県農林水産部漁港漁場整備課、水産振興課 <p>申請者は、協議会の会長である長門市経済産業部長である。 藻場保全活動は、漁業関係者が対象海域を4漁協支店で分担し、ウニ類の除去、母藻の設置・移植、海底清掃を実施する。 協議会の会長及び事務局である長門市は協議会の運営を行うとともに、活動の認知度を高め、地域の重要な産業である水産業及び観光業の活性化に向け広報活動を行う。 県は市が行う環境学習会や漁業従事者確保に向けた広報活動などを連携して行う。</p>
クレジット取得理由	<p>【クレジットを取得する理由】 藻場の被度向上による気候変動緩和対策を進めるとともに、地域の重要な産業である水産業、及び観光業を活性化させるためには、効果的かつ継続的な藻場保全活動や活動箇所に近接する「仙崎地方卸売市場」や道の駅「センザキッチン」を活用した広報活動が必要であるため、その費用としてクレジット収入を活用していきたい。 また、保全活動のための資材の購入、食害生物の有効活用（食材等）の取り組みに向けた活動に活用する。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>核藻場としての機能発揮を目指し、活動範囲の藻場被度向上を進めるとともに、現在造成中の藻場を活動範囲に加えるなどの活動を進めていきます。 藻場の回復・維持により、美しく豊かな仙崎湾を取り戻し、地球温暖化の抑制や水産資源や観光資源の確保に貢献していきます。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>○35.9haの活動面積を4漁協支店で分担し、環境に配慮して素潜りや船上からの藻場保全活動（ウニ類の駆除等）を実施</p> <p>◇通支店保全グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動面積：8.0ha ・活動者：8名 ・活動内容：素潜りによるウニ類の駆除、藻場の繁茂状況の把握 ・活動回数：7回（2024年10月～2025年9月） <p>◇仙崎支店保全グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動面積：24.5ha ・活動者：5名 ・活動内容：素潜りによるウニ類の駆除、藻場の繁茂状況の把握 ・活動回数：11回（2024年10月～2025年9月） <p>◇野波瀬支店保全グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動面積：1.6ha ・活動者：4名

申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容：素潜りによるウニ類の駆除、藻場の繁茂状況の把握 ・活動回数：4回（2024年10月~2025年9月） ◇小島支店保全グループ ・活動面積：1.8ha ・活動者：4名 ・活動内容：素潜りによるウニ類の駆除、藻場の繁茂状況の把握 ・活動回数：12回（2024年10月~2025年9月） ○仙崎湾に隣接する長門市立明倫小学校（5,6年生）43名を対象に、環境学習会を実施（2024年10月18日） ○関係者が共同かつ組織的な活動を行うため、協議会総会を2回実施（2024年12月17日、2025年7月15日） ○モニタリング調査については下記のとおり ・海藻育成調査：一式（2025年6月21日） ・船上目視及び水中カメラ調査：一式（2025年6月20日、21日） <p>【別添】01_藻場保全活動の状況</p>
プロジェクト実施開始日	2014年4月1日 ~ 現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】クロメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 0.065(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 11_アラメ場計算式（濃生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 62.25</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 アラメ（濃生）$1.55628 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2) \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 62,251$.2 (kg) = 62.25 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 83.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 アラメ（濃生）$(\text{湿重量}1556.28 - \text{乾重量}261.46) / \text{湿重量}1556.28 = 0.8$319 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目1	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.5% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.206(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.065(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：3.17792 × 評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 3.00(h) 【出力】 134.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.047(t-CO₂)</p> <hr/> <p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 4.00(h) 【出力】 41.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.061(t-CO₂)</p>

項目1	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。 ②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥底質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf <p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>0.05(t-CO₂)</p>

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】クロメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 0.062(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 12_アラメ場計算式（密生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 30.84</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 アラメ（密生）$0.77104 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 30,841.6 \text{ (kg)}$ = 30.84 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 83.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 アラメ（密生）$(\text{湿重量}771.04 - \text{乾重量}129.53) / \text{湿重量}771.04 = 0.832$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目2	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.5% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.097(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.062(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：1.57441×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目2	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。 ②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>0.074(t-CO₂)</p>

項目3	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】クロメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 0.886(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 13_アラメ場計算式（疎生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 8.62</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 アラメ（疎生）$0.21571 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 8,628.4 \text{ (kg)}$ = 8.62 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 83.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 アラメ（疎生）$(\text{湿重量}215.71 - \text{乾重量}36.24) / \text{湿重量}215.71 = 0.8319$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目3	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.5% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.389(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.886(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.44006 × 評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	0.298(t-CO ₂)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】クロメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 1.018(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 14_アラメ場計算式（点生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 0.97</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 アラメ（点生）$0.02428 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 971.2 \text{ (kg)}$ 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 83.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 アラメ（点生）$(\text{湿重量}24.28 - \text{乾重量}4.08) / \text{湿重量}24.28 = 0.8319$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目4	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.5% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0528 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目4	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.05(t\text{-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：1.018(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.0495195 × 評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>0.038(t-CO₂)</p>

項目5	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 0.225(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 21_ガラモ場計算式（濃生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 49.24</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ガラモ（濃生）$1.23103 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 49,241.2 \text{ (kg)}$ = 49.24 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 81.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ガラモ（濃生）$(\text{湿重量}1231.03 - \text{乾重量}231.43) / \text{湿重量}1231.03 = 0.8$ 120 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目5	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 02-1_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	--

項目5	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.462(t\text{-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：$0.225(\text{ha}) \times \text{評価：}85\%$)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：$2.05661 \times \text{評価：}90\%$)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。 ②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	0.353(t-CO ₂)

項目6	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 4.165(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 22_ガラモ場計算式（密生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 35.01</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ガラモ（密生）$0.87525 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 35.010 \text{ (kg)}$ = 35.01 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 81.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ガラモ（密生）$(\text{湿重量}875.25 - \text{乾重量}164.53) / \text{湿重量}164.53 = 0.812$</p> <p>0 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目6	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目6	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 6.09(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：4.165(ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：1.46226 × 評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目6	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。 ②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥底質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf</p>	
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	4.659(t-CO ₂)

項目7	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 2.368(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 23_ガラモ場計算式（疎生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 17.88</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ガラモ（疎生）$0.44708 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 17,883.2 \text{ (kg)}$ = 17.88 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 81.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ガラモ（疎生）$(\text{湿重量}447.08 - \text{乾重量}84.03) / \text{湿重量}447.08 = 0.8120$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目7	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目7	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.768(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：2.368(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.746794×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目7	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>1.352(t-CO₂)</p>

項目8	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 0.539(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 24_ガラモ場計算式（点生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 5.68</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ガラモ（点生）$0.14217 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 5,686.8 \text{ (kg)}$ = 5.68 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 81.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ガラモ（点生）$(\text{湿重量}142.17 - \text{乾重量}26.72) / \text{湿重量}142.17 = 0.8120$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目8	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目8	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.127(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.539(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.237236×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した 船舶の情報	船舶使用なし

項目8	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥底質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>0.097(t-CO₂)</p>

項目9	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 0.231(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 33_ワカメ場計算式（疎生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 10.84</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ワカメ（疎生）$0.27104 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 10,841.6 \text{ (kg)}$ = 10.84 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 87.7(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ワカメ（疎生）$(\text{湿重量}271.04 - \text{乾重量}33.34) / \text{湿重量}271.04 = 0.8769$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目9	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.5 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.7% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
-----	-------	---

項目9	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.062(t\text{-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：$0.231(\text{ha})$ × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.270132 × 評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目9	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥低質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸收量</p> <p>0.047(t-CO₂)</p>

項目10	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
		<p>【面積】 0.956(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 34_ワカメ場計算式（点生）.xlsx 海藻被度.xlsx 02-3_調査書概要版（2025）P.32~R34.pdf 02-4_調査書概要版（2025）P.1~R4.pdf 02-5_調査書概要版（2025）P.9~R12.pdf</p> <p>【面積の資料】 02-3_調査書概要版（2025）P.32~P.34.pdf 02-4_調査調査書概要版（2025）P.1~P.4.pdf 02-5_調査調査書概要版（2025）P.9~P.12.pdf</p>
	③対象とする面積	
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 1.91</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 ワカメ（点生）$0.04774 \text{ (kg} \cdot \text{ww}/0.25\text{m}^2\text{)} \times 4 \times 10000 \text{ (m}^2\text{)} = 1,909.6 \text{ (kg)}$ = 1.91 (t) 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p> <p>【含水率】 87.7(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 ワカメ（点生）$(\text{湿重量}47.74 - \text{乾重量}5.87) / \text{湿重量}47.74 = 0.8770$</p> <p>02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf 海藻種別含水量.xlsx</p> <p>【含水率に関する資料】 02-1_調査書概要版（2025）P.5~P.8.pdf</p>

項目10	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.5 【P/B比の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【P/B比に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.7% 【炭素含有率の算定根拠】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【炭素含有率に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率1に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【残存率2に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02-2_調査書概要版（2025）P.29.pdf</p>
------	-------	---

項目10	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.045(\text{t-CO}_2)$</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：$0.956(\text{ha}) \times \text{評価：}85\%$)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：$0.0475971 \times \text{評価：}90\%$)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目10	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p> <p>【CO₂吸收量】 0(t-CO₂) (入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 対象区…不明 ①2024年と比べ2025年は活動クロメ類、ホンダワラ類では実勢面積が大きくなった。ワカメ類の一年草は減少した。 ②活動区は1983年から山口県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質。対象区は活動区周辺の砂底質、砂礫質、泥底質といった海藻の少ない海域。</p> <p>【資料】 03_ベースライン設定の根拠.pdf 04_仙崎湾周辺での藻場の減少状況.pdf 05_令和6年（2024年）との比較.pdf</p>	
	⑨クレジット認証対象の 吸收量	0.034(t-CO ₂)

合計のクレジット認証対象の吸収量	7.0 t
------------------	-------